

第1学年 道徳科学習指導案

令和3年10月27日（水） 第5校時

- 1 主題名 気もちのよい生活 内容項目[A 節度、節制]
- 2 ねらい 主人公の軽率な行動が、周りに迷惑をかけて、結果的に大切な仕事をやり遂げられなかったという出来事からどんなことが大切かを考える学習を通して、どのような状況であっても、身勝手にわがままな発言をしないで、周りのことを考えた節度ある生活をしようとする心情を育てる。

教材名 「大あわての トラッピー」（出典：「新・みんなのどうとく1」学研教育みらい）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校学習指導要領第三章特別の教科道徳の内容項目A「主として自分自身に関すること」の〔節度、節制〕、第1学年及び第2学年「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事」をねらいとしている。これは、第3学年及び第4学年の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をする事」、第5学年及び第6学年の「安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること」へと発展していく。

本指導内容は、健康や安全に気を付け、自立した生活ができるようにするための基本的な生活習慣を身に付けること、節度をもって節制を心がけた生活を送ることに関するものである。

低学年の段階では、自分を中心に物事が動いているように捉える傾向がある。そのために、子どもたちは自分本位の行動をとりがちで、そのことが友達や周りの人間を困らせていることに考えが及ばないことが多い。自分勝手な振る舞いが他人に迷惑をかけたか、心配をかけたかしていることを自覚し、どのような状態であっても、身勝手にわがままな行動や発言をしないで、周りの人のことも考えた節度ある生活をしようとする心情を育てたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、入学した頃、「田ヶ谷小のきまり」を通して学校にはたくさんのきまりがあることを知った。毎月の生活目標も毎日声に出し確認をしている。「きまりを守らなければいけない」という意識はあるものの、つい廊下を走ってしまったり、掃除中に無駄話をしてしまったりと、自分の気持ちが優先して、きまりを忘れてしまうことがある。

これまでに道徳科「かぼちゃのつる」では、わがままはなぜいけないのだろうということを考えた。「わがままをすると人に迷惑がかかる。」「人を困らせてしまうから、わがままはよくない。」と、自分のわがままな気持ちを抑えて生活する態度はとても大切だということに気付くことができた。しかし、その時の気分や好き嫌いで、いい加減な生活態度になることもあ

り、自分の行動が他人へ影響することや、自分自身の不十分さに気付いてないこともある。

そこで、本主題を学習するにあたり、一人一人がねらいに迫れるよう、以下の意識調査を行った。

1年〇組 本主題に関する意識調査 16名（9月17日実施）

質問事項	回答
1 今までにわがままや自分勝手なことを言ってしまったことはあるか。	はい・・・16人（100%） いいえ・・・0人（0%）
2 わがままや自分勝手を注意されたことはあるか。	はい・・・13人（81%） いいえ・・・3人（18%）
3 どんなときに注意をされたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを買ってほしいとねだったとき。（7人） ・お手伝いをしなさいと言われたのに嫌だと言ったとき。（2人） ・じゃんけんで負けて機嫌が悪くなったとき。（1人） ・幼稚園に行きたくないと言ったとき。（1人） ・アイスクリームを買ってほしいとねだったとき。（1人） ・お風呂に入りなさいと言われても入らなかったとき。（1人）
4 わがままや自分勝手をすると相手はどんな気持ちになりますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・困ってしまう。 ・迷惑をかけて嫌な気持ちにしてしまう。

本学級の児童は、アンケート調査からも、日常生活の中でわがままや自分勝手なことを言ってしまったたり、わがままな行動をしてしまったたりという経験をしている。また、わがままや自分勝手なことをしてしまったという自覚もあることが分かる。注意をされた時の状況を見ると、欲しい物ややりたい気持ちが優先してしまい、わがままを言ってしまったという傾向がみられる。しかし、わがままや自分勝手は家族や友達、先生を困らせてしまうものであることや迷惑がかかることだということには分かっているようである。

そこで、本教材を通し、主人公と自分の行動を重ね合わせ、自分のこれまでの生活の在り方を振り返らせて、快適な生活を送る上で節度や節制が大切であることを考えさせ、周りの人のことも考えた節度ある生活をしようとする心情を育てていきたい。

（3）教材の特質や活用方法について

寝坊したトラッピーが、約束の時間に遅れそうなので、朝ご飯のガソリンも入れずに道路へ飛び出し、周囲の注意も聞かずにスピードを上げて走り、周りの車に迷惑をかけ、最後にはガソリンがなくなり動けなくなってしまうという内容である。トラッピーの行動と自分の行動を重ね合わせ、自分のこれまでの生活の在り方を振り返らせて、快適な生活を送る上で節度や

節制が大切であることを考えさせることのできる教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合い、ねらいに迫る。

① トラッピーが荷物を届けようとしている場面

ここでは、約束の時間に荷物を届けようと思って行動している思いと、約束を守ろうとするあまり、周りの車に迷惑をかけてしまっている行動になってしまっていることに気付かせることで、基本的な生活習慣、整理整頓、安全への配慮など、節度や節制の内容について理解させていく。

② トラッピーがどんどんスピードを上げて、他の車を抜いていく場面

ここでは、自分勝手な行動が、周りの人に心配をかけたり、周りの人の健康や安全を脅かしたりすることがあることに気付かせる。

③ トラッピーが大あわてをしている場面

ここでは、トラッピーに教えてあげることの理由も併せて考えることで、「わがままをしないで規則正しい生活をする」という内容項目を自分と関わらせて考えさせる。

以上のことを踏まえ、「節度、節制」についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方についての考え方を深めたいと考え、本主題を設定した。

4 研究主題との関わり

研究主題	豊かな心を育む 子どもが輝く授業づくり ～「特別の教科 道徳」を通じて～
------	---

<目指す児童像>

- ①学習を通じて、道徳的諸価値について理解することができる児童
- ②他者と対話をしたり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることができる児童
- ③道徳的諸価値を基盤として、自己の生き方について考えを深める児童

仮説1	児童の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに迫る発問を明確にし、授業の構成や指導内容を工夫すれば、児童が道徳的価値への理解を深めるとともに、自ら考え、自主的に学習に取り組むことができるようになるであろう。
-----	---

<手立て>

①発問構成の工夫

教材のもつ主題やねらいそのものに関わり、掘り下げたり追及したりする発問を中心に、場

面発問や補助発問を適宜組み合わせることで、児童自ら道徳的価値への理解を促す。また、多面的・多角的思考を促す発問をすることで、児童が主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。



本時では、トラップイーの思いと周りの車の思いを対比させる発問や、トラップイーに教えてあげようという発問を通して、多様な価値観に触れたり、多面的・多角的に考えさせたりして、「節度、節制」についての道徳的価値への理解を促す。

②授業展開の工夫

児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習だけでなく、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れる。児童が自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせ、自分事として考えたり感じたりすることができるようにする。



本時では、導入で実生活での出来事を想起させたり、アンケート結果を提示したりして、自分事として考えられるようにする。

仮説2 教材や体験などを基に、考えたことや感じたことを共有させたり、異なる視点から多面的・多角的に考え、議論させたりすれば、自らの感じ方や考え方を深め、自らの成長を実感できるようになるであろう。

<手立て>

①言葉を生かし考えを深める工夫

児童が自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会の充実を図る。具体的には、役割演技を生かした話し合い、小集団での話し合い、書く活動の工夫、ICT機器の活用等、授業で意図的に設定していく。



本時では、中心発問にてペアによる話し合いを取り入れ、多様な価値観に触れさせる。また、役割演技を取り入れながら考えを全体で共有したり、トラップイーや周りの車等、異なる立場から多面的・多角的に考えたりする場を設ける。

5 学習指導過程

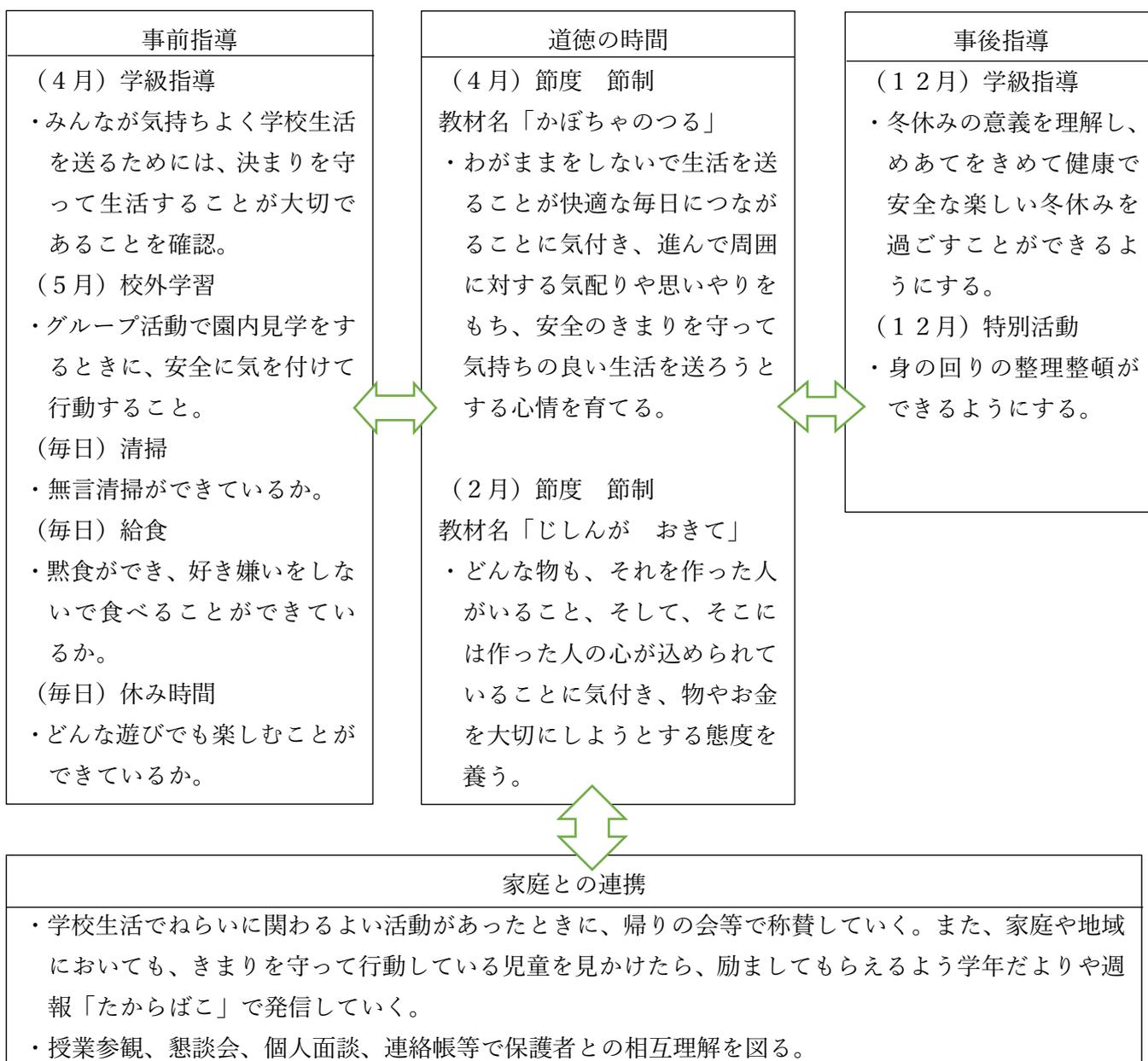
段階	学習活動 ○主な発問	・予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1、アンケート結果から、主題について考える。		

	<p>○今までにわがままや自分勝手なことを言ってしまったことはありますか。</p> <p>○わがままや自分勝手を注意されたことはありますか。</p> <p>○どんなことを注意されたのですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなもわがままや自分勝手を言ってしまうのだな。 ・自分も同じだな。 ・おもちゃを買ってもらえなかった。 ・時間に間に合わなくて廊下を走ってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家での自分自身の生活を振り返り、自分勝手やわがままをして、叱られたり、注意をされたりした経験を想起させ、自己理解を深めるきっかけとする。 ・アンケート結果を提示することにより、本時の道徳的価値に対して問題意識をもって授業に臨めるようにする。
<p>展開</p>	<p>2、教材の読み聞かせを聞き、話の内容をつかむ。</p> <p>(1) 登場人物の条件・状況について知る。</p> <p>(2) 教師の範読を聞く。</p> <p>(3) 教材にある道徳的な問題について話し合う。</p> <p>○トラッピーの「いいところ」「よくなかったところ」はどこでしょう。</p>	<div data-bbox="703 815 1430 1066" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>登場人物 トラッピー</p> <p>寝坊したトラッピーが、約束の時間に遅れそうなので、朝ご飯のガソリンも入れずに道路へ飛び出し、周囲の注意も聞かずにスピードを上げて走り、周りの車に迷惑をかけてしまう。</p> </div> <div data-bbox="657 1346 810 1384" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>いいところ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事におくれないようにがんばっているところ。 <div data-bbox="657 1491 927 1529" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>よくなかったところ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンを入れなかったところ。 ・スピードを出しすぎたところ。 ・まわりの注意を聞かなかったところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板を使って、挿絵等を提示しながら話を聞かせていく。 ・大あわてになった理由を基に、生活習慣の不十分さ、整理整頓ができていないこと、スピードを出しすぎても周りの注意を聞き入れないことなどを、よいところとよくないところに分けて板書し、理解を深める。
	<p>○周りの車は、どんどんス</p>	<p>・危ないよ。事故が起きる</p>	<p>・自分勝手な行動が周りの人</p>
<p>どうすればめいわくをかけずにしごとをすることができたのだろう</p>			

	<p>ピードをあげていくトラッピーパーを見て、どのように思ったでしょう。</p> <p>補仕事に遅れないようにするためにちょっとくらいスピード出しすぎてもいいのではないですか。</p> <p>○トラッピーパーが大あわてにならないで、しっかり荷物を届けるためにはどうすればよかったのか、トラッピーパーに教えてあげましょう。</p> <p>補なぜそう考えたのですか。</p> <p>補トラッピーパーと似たような経験があるのですか。</p>	<p>よ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとゆっくり走って。 ・荷物が落ちそうだよ。 <ul style="list-style-type: none"> ・だめ。どんなときでも安全に運転しないと危ないから。 ・周りに迷惑をかけるからスピードを出してはいけない。 ・目覚ましをかけて寝ると慌てないですむよ。 ・遅れてしまってもゆっくり走って安全に運転するといいよ。 ・注意をちゃんと聞くと迷惑がかからないよ。 ・人に迷惑がかからないですむから。 ・相手を困らせてはいけないから。 ・つい廊下を走ってしまった。 ・おもちゃをねだってしまった。 ・順番を守れなかった。 	<p>に心配をかけたり、周りの人の安全を脅かすことがあったりすることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守るというところにこだわるのではなく、きまりを守り、安全な生活を送ることの大切さを考えさせる。 ・「ねえ　トラッピーパー…」の後に続く言葉を考えて、ワークシートのふきだしに書き入れさせる。 ・ペアになって考えを伝え合わせる。 <p>☆トラッピーパーが周りに迷惑をかけずにするための方法について、友達の考えを聞きながら多面的・多角的に考えている。(発言・記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がトラッピーパー役、児童が周りの車役になって役割演技をする。そのときにそう考えた理由も併せて聞くようにする。 <p>☆自分勝手な行動やわがままをせず、規則正しく安全な生活をする事について、自分との関わりで考えている。(記述、発言)</p>
終末	4、今までの自分を振り返り、これからの生活につ		

	<p>いて考える。</p> <p>○ 今日の学習を通して、これからどんなことに気を付けて生活をしていきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りのことを考えて生活していきたい。 ・やってはいけないことはきちんと我慢をする。 ・人に迷惑をかけないように安全に生活していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分を振り返って考え、気持ちのよい生活をしようとする意欲を高める。
--	---	--	---

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

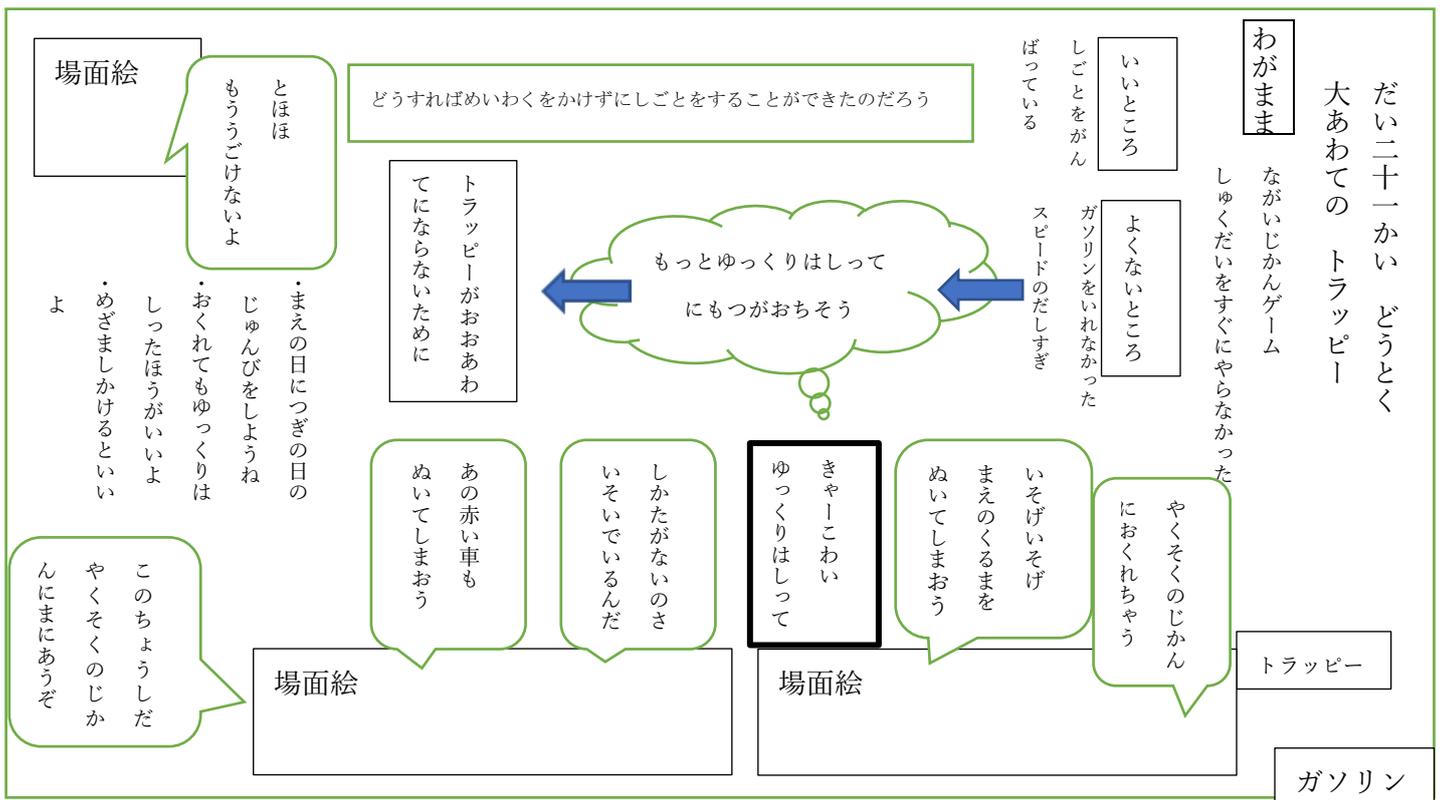
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・トラッピーが周りに迷惑をかけずにするための方法について、友達の考えを聞きながら多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関りで深めている様子】

- ・自分勝手な行動やわがままをせず、規則正しく安全な生活をするということについて、自分との関わりで考えている。

8 板書計画



1年1組 道徳科研究授業・発問の流れ

1 主題名 内容項目	気もちの よい 生活 内容項目 [A 節度、節制]	
2 ねらい	主人公の軽率な行動が、周りに迷惑をかけて、結果的に大切な仕事をやり遂げられなかった出来事を通して、どのような状況であっても、身勝手にわがままな発言をしないで、周りのことを考えた節度ある生活をしようとする心情を育てる。	
3 教材名	「大あわての トラッピー」	
4 ねらいに迫る中心発問	教師の発問	発問の意図やねらい
	T トラッピーが大あわてにならないで、しっかり荷物を届けるためにはどうすればよかったのか、トラッピーに教えてあげましょう。 補助発問 ・なぜそう考えたのですか。 ・トラッピーと似たような経験があるのですか。	自分勝手な行動やわがままをせず、規則正しく安全な生活をするということについて、考えを深められるようにする。
5 中心発問を支える発問①	T トラッピーの「よいところ」「よくなかったところ」はどこでしょう。	トラッピーのいいところとよくないところを考えさせることで、トラッピーの生活の課題を見つけさせる。
中心発問を支える発問②	T 周りの車は、どんどんスピードをあげていくトラッピーを見て、どのように思ったでしょう。 補助発問 仕事に遅れないようにするためにちょっとくらいスピード出しすぎてもいいのではないですか。	トラッピーの思いと、周りの車のトラッピーへの思いを対比させることで、多面的・多角的に考えさせたい。
6 授業展開、教材教具の工夫	導入段階で、実生活での出来事を想起させたり、アンケート結果を提示したりして、児童が学習課題に対して意欲を高め、自分のこととして考えられるようにする。また、黒板全面を使って話の流れを丁寧におさえていく。 展開では、中心発問でペアによる話し合いを取り入れ、多様な価値観に触れさせる。また、役割演技を取り入れながら全体で共有し、友達の考えを多面的、多角的に考えられるようにする。	